

護保険法及び介護保険施行法がそれぞれ公布された。高齢化に対応する現行制度の再構築を図り、国民の共同連帯の理念に基づき社会全体で介護を必要とする者の介護を与える新たな仕組みとして介護保険制度が創設されたが、行政機関の施策のみでは、キメ細かい介護サービスは、期待できない。私の住む狭山市では、市に福祉公舎を設立し介護保険制度の対応施策の一環として「市民参加による在宅介護福祉サービス」の有償ボランティア団体設立の準備段階にあり、微力ながら設立に協力し、いずれが本業やら分からぬ有様である。ともあれ、社会保険労務士が地域に密着して役立つためには、公共に奉仕する一面があつてよいと考えて活動している。諸賢の御協力御支援をお願いする次第である。

二一世紀は、小子高齢化の付けが来て、忽ち年金問題が行き詰まりを生ずる恐れがある。年金白書で給付と負担の均衡を問題にしているが、現在、大蔵省資金運用部に預託されている年金積立金の一三二兆九千億円を厚生大臣による自主運用を行うことに決定されたが、厚生官僚が畑違いの資産運用ができるのか、また、年金福祉事業団の廃止に伴い、大規模年金保養基地業務から撤退し福祉施設は、所在都道府県に買い取らせ運営させることとしているが、都道府県の財政で買い取れるのか、買い取りできなければ、廃棄する心算のようであるが、使い捨ての風潮が政府要路にまで浸透していると思うと寒心に耐えない。社会保険労務士として黙って見ているしかないのか、終戦後半世紀を経て真の敗戦が今到来しているように愚考する。この敗北感を心中深くに抱いて老兵は、黙って消え行くべきか、諸先生の賢察と国民防護の先駆的実践を期待しつつ本稿を終ることとする。

## 現場を見ると事実が見える、

### 現場学ぶ安全研修会

田 中 隆

昭和五五年十一月、所沢労働基準監督署西榮一課長（現・浦和労働基準監督署長）に諸々の手配をして戴くと共に、当日も同行して戴き、工事現場において指導を受けるといふ形で、支部の安全研修会が行われました。

赤津支部長（当時）以下十数名の参加者は、この日のために購入したヘルメット、安全靴で身を固め、バスで目的地へ出発。現場到着までの車内において、より実のある研修をという西課長のご配慮により、研修現場三ヶ所についての研修ポイント、現場現況等の議義を受けました。

#### 一、団地木造建築現場（現・高麗武蔵台団地 二二三六世帯）

山の斜面を造成した大規模団地で既に造成工事は終わり、あちらこちらに多数の木造家屋が、展示会場のように建築中でした。この現場では主として、足場についての研修を受けました。この現場で使用されていた足場の多くは、ブラケット一側足場であったと思います。

参加者は各々自分の見たい棟を見て廻り、知識と現場の確認を自分の目で行いました。「百聞は一見にしかず」。西課長から使用中の足場を見ながら、敷盤、建地、ブラケット、クランプ、布板、壁のつなぎ、一スパン当りの積載荷重等について安全衛生法の規定を含めて詳細に説明を受けました。

現在では墜落防止のため、足場先行工法が推奨されているなど

足場は進歩していますが、当時一側抱足場しか見たことのなかった私にとって、このとき、足場に対する認識を一変させられたことが思い出されます。

## 二、飯能市焼却場建設現場

この現場は、焼却場のごみ集積場を作るため、沢に面した斜面に建設中の擁壁工事で生コン打込み中、生コンの重力で腹が膨らんで型枠が撥ね、作業員が生コンと共に型枠の下敷きになって死亡した現場でした。

当時はまだ災害原因を調査中のため、原因については正確に知ることができませんでした。部外者には災害発生時の詳細について知ることができませんが、私なりに推測すれば施工管理ミスであつたのではないかと思います。

通常、生コン打込みは材齢、プラントを出てからの時間、打込み量、天候、気温等を考慮し、工程計画に基づいて行うものです。がこの現場の場合、打込みを指示した人の判断ミスにより引き起こされた人的原因による人災であつた様に思います。

## 三、有馬ダム建設現場

有馬ダムは、埼玉県が入間川下流域の出水による災害防止と流域の都市用水不足に対処するため、入間川総合開発事業の一環として建設された他目的ダムで、昭和四二年四月に予備調査を開始、昭和六一年三月に完成した提高八三・五メートルの中央土質遮水壁形ロックフィルダムです。現場に行つた頃はダム本体工事着工から一年位の時でした。

広大な工事現場には、普段見ている土木工事現場では見ることも出来ない超大型の建設機械が何台も作業をしており、スケールの大きさにビックリしたものです。

係りの人の案内でマイクロバスに乗り、工事現場をかなり広範囲に廻りながら工事の進捗状況、これからの工事作業、ダム形式、安全対策等について説明をして戴きました。残念ながら、工事についての技術的なことは私の知識、能力では到底理解することは出来ませんでした。徹底した安全対策、安全に対する心構えについては感銘を受けました。

「安全とはどうあるべきか。」「安全は現場を知ることから始まる。」という事を教えて貰った一日でした。このひを契機として安全管理指導、RSTトレーナー業務を進めるうえで心構えが大きく変わりました。西榮一署長、ご指導戴き、感謝しております。

